

1章 とりかい 鳥飼校区



1章 鳥飼校区

1. 龍王神社

【所在地】城南区鳥飼7丁目9

【概要】境内の大きな銀杏の木が目印となっており、隣には七隈川が流れる。1980（昭和五十五年）年に神社世話人によってまとめられた『龍王神社の由来』によると、鳥飼7丁目2区は、1971（昭和四十六）年の町名変更前まで「龍王町」と呼ばれていたという。同書にはまた、当時（1980年ころ）の祭礼の様子が記載されており、「毎月七日は例祭で午前十一時、参拝者一同祭礼に参加終了後、お籠り堂に参集し歓談、ささやかな食事に参加しています。七月七日は大祭で当日は境内に幟が立ち僧侶を招き盛大に行っています」（石橋1997:1-2）とある。現在（2013年3月時点）でも、毎月7日にお祭が行われている（2013年3月神社世話人に確認）。

【境内祠堂等】十三仏、吉祥天、弘法大師像、日切地藏（「天明八年申十月二十四日」銘）、毘沙門天、不動明王、地藏菩薩、修行大師、亀形（自然石）など多数。

【参考文献】石橋純一 1997『龍王神社の由来』（初版、1980年）



龍王神社の外観。銀杏の木付近が龍王神社、左は七隈川（2013.2.11撮影）

2. 山崎朝雲「種痘」

【所在地】城南区鳥飼5丁目2-25（城南保健所敷地内）

【概要】城南区保健所の入口付近に城南区役所側（西側）を向いて立つ。像の前には、*2副碑がある。作者である山崎朝雲は、碑文にもある通り博多区出身の人物であり、福岡市内の作品では東公園の亀山上皇像をはじめ、中央区天神1-15（交差点「福岡市役所入り口」北東角）付近の「桂の

影」などがある。

【碑文等】

*1 山崎朝雲「種痘」

[台座] 種痘

*2 副碑

[表]

種痘 作者 山崎朝雲

天然痘の予防接種である種痘を終えたばかりの幼児が、右腕の接種跡をのぞき込んで安堵している。子供の無病息災を祈る作者の愛情が、幼児の顔の表情によく表されている。

作者の山崎朝雲（一八六七～一九五四）は、今の博多区冷泉町出身。上京して彫刻家高村光雲に入門。主に文展・帝展・日展などを舞台にわが国の近代木彫界の重鎮として活躍。日本芸術員会員、文化功労者にも選ばれた。東公園の亀山上皇像は代表作。

この作品は明治四十一年（一九〇八）の日本美術協会美術展覧会で銀賞牌を受賞した。



山崎朝雲「種痘」。奥の建物が城南保健所（2013.2.22撮影）

3. 絵柄タイル

【所在地】城南区役所（鳥飼6丁目1-1）と城南保健所（鳥飼5丁目2-25）の周囲

【概要】城南区役所と、隣接する城南保健所を囲む外壁に絵柄のついたタイルが貼られている。説明板から城南区の子どもたちによって描かれ、1987（昭和六十二年）年に設置されたことがわかる。

【碑文等】

*1 説明板（※城南保健所入口、城南区役所南側の計2ヶ所にあり、両方とも同じ文面）

絵柄タイルについて

この庁舎が、区民の皆様の身近なものとして、また、親しみのある施設となることを願い、未来を担う区内の子ども達が、自由に描いた絵柄タイルをこの植栽縁に貼り込みました。住みよい街づくりのための拠点として、大いに利用されますよう念願するものであります。

昭和62年3月

福岡市長

桑原敬一



城南保健所側のタイルの様子。写真右に*1 の説明板（2013.2.22 撮影）



城南区役所側のタイル（2013.2.22 撮影）

